

## ⑥5 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校整備事業

授賞機関 福島県

**キーワード** 地域復興のシンボル、ECC（エデュケーションalconコース）

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

避難を余儀なくされた双葉郡内の教育環境を改善し、地域復興の核となる人材や全国・世界で活躍できる人材を育成する「ふたば未来学園」の整備事業。土工事でICT施工を採用して工期を短縮した点や、太陽光発電や太陽熱利用設備等の採用により非常時の避難所としての機能も有する点が評価された。

### 1. はじめに

ふたば未来学園は、東日本大震災及び東京電力第一原子力発電所事故により避難を余儀なくされた福島県双葉郡内の県立高等学校（5校）の特色と伝統を受け継ぎつつ、復興のシンボルとして地域復興の核となる人材や全国・世界で活躍できる人材を育成するため、広野町に計画整備された中高一貫校である。

### 2. 事業の概要

- 敷地面積：57,485.78㎡
- 延べ面積：21,401.24㎡
- 構造：〔教室棟〕RC造及びW造他2階建て  
〔体育施設棟〕S造2階建て 他

本中高一貫校は、「変革者」を育成するという高い志を持ち、生徒たちが「自立」「協働」「創造」という校訓のもと、革新的な教育活動を推進する学校として計画された。



施設外観

本校舎は、広野町の西側に位置しており、広野町の街並みを受け止めるイメージで馬蹄形に建物を配置。町の一部となるような街路空間ECC（エデュケーションalconコース）を設け、隣接する幼児・小学校施設など、

周辺の街並みと有機的に繋がることで、地域社会と一体となった教育環境を実現している。ECCを軸として、内側には生徒の学習の拠点となる教室棟、外側には生徒の様々な学びをサポートする管理棟や特別教室棟などを配置。軸線としてのECCは、生徒たちが街の暮らしや交流の中で見守り育ち、発見や体験によって可能性を引き出すような「主体性」「協働性」「創造性」を育てている。



周辺の街並みと有機的に繋がる街路空間（ECC）

### 3. 事業の成果

地域復興のシンボルとして一日も早い完成が求められていたため、土工事においてICT施工を採用し、工期の短縮を実現。生徒の生活拠点になる普通教室棟を木造でつくり、温かみと潤いのある教育環境づくりを進めるとともに、福島県産の木材を896㎡利用することで、環境への配慮、地場産業の活性化に寄与した。

太陽光発電・太陽熱利用設備を設け、災害時等に避難所となる格技場等の床の蓄熱が可能であり、非常時には地域住民にも快適な空間として活用できる。また、建築・電気・機械の各施工者が3D-CADを活用の上、建築躯体や配管などの収まりや取合いを事前に十分検討・調整し、将来のメンテナンスにも配慮した仕上がりとしている。

### 4. おわりに

多くの方々からの御支援と県民の皆さまの努力のおかげで、復興の光が少しずつ見えてきている。本県復興の行く手には、いくつもの高い壁が立ちはだかっているが、乗り越えることは不可能だと諦めるわけにはいかない。山積する課題に勇敢にチャレンジし、福島の明るい未来を切り拓いていく次第である。

賛助会員 横山建設(株)、田中建設(株)、堀江工業(株)、陰山建設(株)